

1 . SAMPE Journal 2008 年 11・12 月号をお届けします。

(1) 本号は“成形自動化”特集号です。

- ・p.6~14 アルミ製ライナ上にCFRPをフィラメントワインドした圧力容器の液体窒素温度雰囲気における強度試験を行い、炭素繊維・サイジング剤・エポキシ樹脂の寄与が報告されています。
- ・p.18~23 熱可塑性樹脂マトリックス複合材料の深絞り加工による防弾ヘルメット成形について述べ、強化材織物の裁断と積層に時間のかかることを指摘している。
- ・p.40~47 VARTM はガラス繊維 - ポリエステル樹脂・ビニルエステル樹脂の成形品に用いられてきたが、炭素繊維 - エポキシ樹脂への適用は最近のことである。AFRL の脱オートクレーブ プログラム - VARTM 成形の成果について報告されています。

(2)SAMPE 本部役員として岩井作弥氏が、また SAMPE Journal 編集委員では尾崎毅志、武田展雄、山口泰弘の各氏が活躍しています(p.2)。

(3)日本から7名がSAMPEに入会されました(p.25)。

(4)SAMPE の活動に尽力された方々が、フェローを授与されています。55 ページの写真に寺西伸秀・酒谷芳秋・大橋延夫・谷本敏夫の諸氏が列しておられます。

複合材料に興味や関心のある方に、入会を勧めていただくようお願いします。

技術情報交換会 平成 20 年度第 2 回 報告

例会副委員長 山口泰弘

去る 10 月 8 日午後、東京都立川市にある「防衛省技術研究本部 航空装備研究所」の見学会を開催しました。事前申し込みを頂きました約 40 名が参加し、景山研究企画官殿のご挨拶のあと、杉田プロジェクト調整官殿から研究所概要についてご説明頂きました。



その後、2班に分かれて研究所内の先端材料に関連する研究室・資料室を見学しました。それぞれの見学場所では当該分野の担当官から、展示品・試験構造体等の熱心な説明があり、航空装備分野での研究開発の歴史と現状を良く理解することができ、参加者に大変好評でした。以下に代表的見学先の状況を当日配布されたパンフレットからの引用図・写真を基に紹介します。

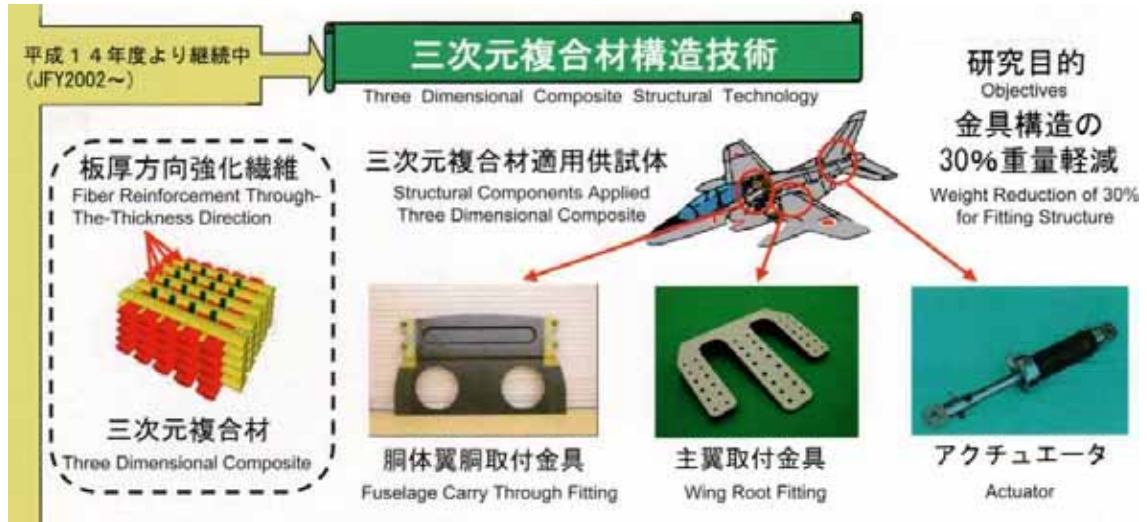
1. XP - 1 実機静強度試験状況



2. エンジン構造・材料技術開発状況



3. 3次元複合材料構造の開発状況



SAMPE の活動はホームページをご覧ください。

SAMPE 本部 <http://www.sampe.com> SAMPE 日本 <http://www.sampejapan.gr.jp>

担当 松井

E mail: junichi-matsui@nifty.ne.jp